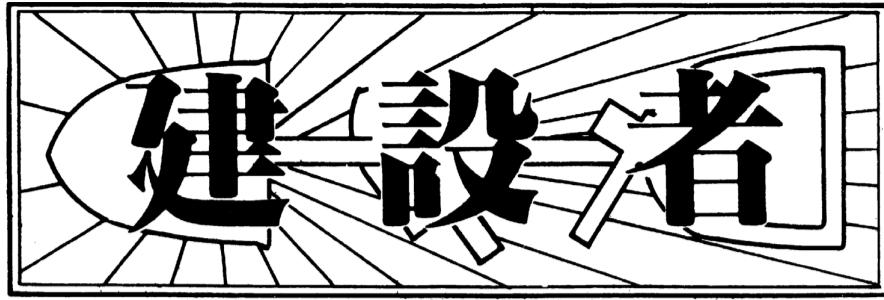


今月の葛飾組織現勢

2024年8月1日	4,100人
加 入	23人
転 入	0人
脱 退	31人
転 出	1人
2024年9月1日現在	4,091人



東京土建一般労働組合

葛 飾 支 部

〒124-0012 葛飾区立石8-34-4
 電 話 (5698) 1 2 6 1
 F A X (5698) 1 2 6 2
 発行人 関 根 伸 正

活動者会議に96人が参加

秋の大運動始まる

秋の本格的な大運動を前に、今年も活動者会議を8月に開催。活動者会議は、支部定期大会に次ぐ大きさの会議で、多くの組合員の参加で開催をしています。8月25日(日)10時から、会場をテクノプラザかつしか、各地域分會から96人が参加しました。開会にあたり及川委員長が



秋の大運動の成功に向けて参加者全員でガンバロウ三唱



及川委員長

らは、これから始まる秋の拡大月間へはみなさんの協力が必要であること、対区・対区議会要請行動ではより良い建設業になるようすすめていきたいなど挨拶がありました。続いて、葛飾支部・本田立石分會から本部役員として選出の後藤本部常任中央執行委員(本部組織部長)から、酷暑の中での作業中の熱中症への対策のお願いと、組織拡大は月間だけでなく普段からの声掛けを意識してほしいと挨拶がありました。その後、山屋書記長より、支部大会で提案した定期大会議案における年間運動の途中経過報告と、9月以降の運動の重点の提案がありました。特に秋の大運動については、左記の3つを重点課題として提案しました。

1. 「拡大運動ができる」組織運動態勢で秋の拡大月間に挑もう
 2. 専門部を横断的な運動で要求運動を前進させよう
 3. 「仲間を一人にしない」人づくり・活動家育成(分会・群の活性化)
 その後、原水爆禁止世界大会参加者(青年部・柳澤部長、女性の会・川井百合子さん)より、報告。続いて、この4月から建設業にも例外なく対応を求められている働き方改革の学習会を松浦社会保険労務士により講演いただきました。
 午後は、参加者がランダムにグループに分かれて、意見交換をしたフリートークに。各グループで枠にとらわれな

拡大出陣式

い自由なトークタイムで意見交換および交流を図りました。



対区要請行動

15時から拡大出陣式へ。秋の拡大月間のスローガン「仲間の要求に応え、拡大行動ができる支部・分会の組織活動を前進させ、結成75周年の秋、全分会で拡大目標達成目指して頑張ろう！」を参加者全員が確認し、秋の拡大月間がスタート。行動日と節目、行動重点などの提案後、小川常任執行委員による乾杯。その後、分会決意表明で、13の分会と青年部・女性の会・建長会、書記局・執行部がそれぞれ登壇し決意表明。各分会から新加入者の持ち寄りがあり、37人の加入成果から秋の拡大月間スタートしました。

葛飾区・区議会・会派への要望
魅力ある建設業にするために

葛飾区および葛飾区議会の各会派への要請行動を8月末から9月にかけて進めています。葛飾区とは8月26日に契約管財課、産業経済課、商工振興課、国保年金課、建築課、すくゆる課の6つの課の代表者と意見交換をしました。持続可能な建設業、若い入職者のいる魅力ある業界であるために、賞金条項を盛り込んだ公契約条例の制定の要望をはじめ、物価高騰への対策や働き方改革の適用と日給月給の働き方への影響など契約内容に絡んだ要望および意見交換、葛飾支部のまちづくりセンターの相談経験を踏まえた区の助成制度の在り方、解体、改修工事にかかるアスベストの取り扱いの助成制度に対する要望および意見交換、マイナ保険証をめぐる区への要望および意見交換などを行いました。
 翌日の27日から9月初旬にかけて、公明党、区民連合、自民党、共産党の区議会4会派との意見交換を進め、議会の中から建設業への支援の要請を行いました。

みんなのできる土建国保予算要求
東京都要請ハガキを書こう



集まった東京都宛要請ハガキ

多くの組合員、家族みなさんにご協力いただき取り組んでいる来年度の建設国保補助金獲得の運動「ハガキ要請行動」。9月までは、東京都の補助獲得に向けた東京都宛ハガキ要請です。このハガキ要請行動は、私

多くの建設国保を守るうえでも必要な取り組みとなります。より多くの組合員や家族のみなさんの力で建設国保補助金現行水準確保の取り組み「ハガキ要請行動」を進めていきましょう。ご協力お願いいたします。

【今後のハガキ要請行動】ハガキシート組織人員分を目標に取組みを進めます。

- ・東京都宛ハガキ要請
- ・9月までの取り組み
- ・財務省宛ハガキ要請
- ・10、11月の取り組み

寅さん

この夏は、パリオリンピックの日本選手活躍に大いに沸きあがった。大きな勇気と

元気を与えてくれた選手には感謝申し上げたい。一方で気になるのがSNSでの選手への誹謗中傷だ。いろんな意見があるのが普通とは思いますが、その中でも、選手の一瞬を捉えて、失敗したことだけをみて批判しているのではないのかと思う。誰の人生でも振り返れば、成功もあれば失敗もある。それを含めてその人であり、その人生である。その人生をかけて様々なものを犠牲にしてオリンピックの舞台に立つことができている。そこを想像することができたなら、その失敗を誰が責めることができるのだろうか。そして、9月8日まではパラリンピックが開催となる。ここでも選手の方々の活躍が勇気と元気をもたらすことを期待したい。
 日本国内では、岸田首相の退陣表明とそれを受けた次期総裁選への立候補者の報道が連日されている。政治と金の問題は国民が納得する形で決着する総裁となるのか。しっかりと私たちが見ていく必要がある。
 東京土建としての私たちの主張と意見は、大きな組織であるからこそ大きな声となる。私たち建設業をよくするために、この秋の拡大月間での組合員みなさんの奮闘は大きな力となる。ここ数年減少を続けている葛飾支部の組織員を来年1月こそ実増でむかえ、力としよう。

秋の拡大月間 成果表

Table with columns for months (2024年 1月1日付, 2024年 9月1日付), monthly changes (1月比増減), summer expansion (夏の日常拡大), and autumn expansion (秋の拡大) with sub-columns for target (目標数) and result (結果).

1月1日付人員比 マイナス 56人

秋の拡大月間スタート 出陣式で37人持ち寄り

夏日常 細田高砂が14人の成果

6月から8月までの夏日常の仲間増やし(拡大)の月間は、目標82人に対して、79人の加入でした。支部目標達成とはなりませんでしたが、8分会(青戸・中央・堀切・亀有・細田高砂・新金町・北水元・幸田)が目標を達成。その中で、中央・堀切・亀有・細田高砂・北水元の5分会が超過達成、細田高砂分会においては、7人の目標に対して14人の加入の成果でした。9月1日付の葛飾支部の組

織数は4091人で、1月1日付人員4147人に対して、56人の減少となっています。その中でも実増分会が、4分会。亀有の4人を先頭に堀切・新金町・北水元が続いています。分会人員を維持しているのが、幸田・水元の2分会となっています。年間実増を目指すうえでも、組織減少をストップさせ、秋の月間で組織実増をめざすこととなります。

多くの声を集める

9月からは、秋の仲間増やし(拡大)の月間を10月まで集中的に取り組んでいきます。支部目標は146人。秋の拡大出陣式では各分会からの持ち寄りで37人の成果があり、スタートダッシュをきる事ができました。この拡大月間は、支部・分会役員だけでなく、多くの組合員の参加しながらの行動でなければ、

組織増は大きな力

一人でも多くの仲間を組合に迎え入れるために、周りに労災保険など、現場に入るためにどうすれば良いのかなどの未加入の方からの相談があった場合は、東京土建を勧めましょう。

秋の統一行動

組合員数が増えることは組織の力にもつながります。その力は、国保補助金獲得に対する大きな力にもつながります。多くの仲間を迎え入れて、私たち建設業界の処遇改善に向けた組合要求運動の力にしていきましょう。

- 第1次: 9月3日
第2次: 9月12日
第3次: 9月19日
第4次: 9月26日
第5次: 10月2日
第6次: 10月9日
第7次: 10月16日
第8次: 10月23日
第9次: 10月29日・30日

たつみ分会



中央分会



柴又分会



水元分会



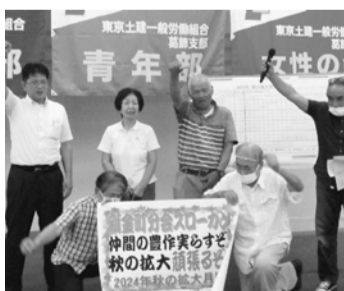
奥戸分会



堀切分会



新金町分会



青年部



本田立石分会



亀有分会



北水元分会



女性の会



青戸分会



細田高砂分会



幸田分会



建長会



原水爆禁止世界大会 広島大会に参加して

女性の会 川井百合子さん

人体実験の話聞き言葉がつまる



川井百合子さん

【女性の会 川井百合子】
今年の大会は世界的な平和に
対する逆流と岸田政権の危険
暴走にストップをかけ「核兵
器のない」世界と日本の核兵
器禁止条約への参加を実現す
る重要な大会です。

私は10数年前に長崎へ参
加。原水爆禁止世界大会は2
度目です。葛飾代表団と子ど
もも含め19人の参加でした。
原爆資料館では、写真や絵な
ど生々しく、衝撃的で「原爆
の怖さ」が伝わり、模型での
原爆が落とされ街に広がって



原水爆禁止世界大会へ代表参加

いく場面、思わずめまいがし
て吸い込まれそうに我に返り
ました。1時間ほど見学し外
へ出ると雨、やがて晴れると
ムシムシ。その猛暑の中を皆
で歩き、広島県立総合体育館
グリーンアリーナ、開会総会
へと向かいました。核兵器廃
絶を求める被爆者らの訴えの
言葉を聞きました。

二日目は分科会で、各自単
独行動です。広島電車で西観
音町下車。生協けんこうプラ
ザ会場です。発言者の野口邦
和さん（非核の政府を求める
会常任・世界大会実行委員会
運営委員会共同代表）から、
核についていろんな方面から
お話をされました。その中
も特に気になったのが、「1
945〜47年、余命10年未満
と診断された18人の末期疾患

患者にプルトニウムを注射さ
れ、体内残留量が調べられ、
被爆者を「消耗品」として
無情に取り扱い、早期に死
亡することを期待して解剖と
臓器を入手していた。中には
20年以上生きて方もいた。1
974年まで人体実験がされ
ていた。」との発言から、被
爆者が「核のモルモット」に
なっていたこと、「人種差別」
そのものであったことを知
り、言葉がつまりました。

うちに核廃絶を」と力のかぎ
り声をあげています。被爆者
の平均年齢は85歳となりまし
た。

広島原爆投下時刻8時15
分、「平和の鐘」の音にあわ
せ全員で黙とう。松井市長は
「希望を胸に、心を一つにて
行動すれば、核抑止論から転
換を促すことが必ずできる」
と呼びかけられました。とし
て、中国新聞社より「特報」
として「核抑止論から転換



柳澤豊さん

青年部 柳澤豊部長

95%が一般市民の犠牲 愚かさを痛感

【青年部 柳澤豊】8月4
〜6日で原水爆禁止大会に参
加しました。

今回広島大会は初めての参
加です。
当日は予定通り開会式に参
加でき、原爆ドームの視察、
資料館では原爆の恐ろしさ、
被爆者の方々の辛さを目で見
て感じてきました。
開会式は各国の方がビデオ
や、実際に広島に来て演説を
して原水爆の恐ろしさ、廃止
を訴えていました。
夜には葛飾原水禁の皆様と
意見交換をしながらの食事

を」という武力依存の状況に
警鐘と大きな見出しの記事
が全員に配られ、素早さにび
っくりました。

平和公園にある大きな樹
木、葛飾の木の下で葛友会の
皆さんと「献水式」を行い、
葛飾区議会議員の言葉をいた
だき、千羽鶴の前で全員で写
真を撮りました。

今平和であること、安心し
て生活できることに感謝する
と共に皆様の各分会のご協力
により参加させていただきま
しました。心よりお礼申し上げ
ます。ありがとうございます。

【中央分会 佐藤智夫】本
当に原子力爆弾を作る必要が
あったのか、なぜ日本（広島
・長崎）なのか。一度ならず



佐藤智夫さん

副執行委員長 佐藤智夫さん

核兵器のない平和な世界を願う

二度までも爆弾を投下する必
要があったのか、こんな物を
なぜ開発してしまったのか、
本当に同じ人間としてとても
辛い思いです。

原子力爆弾など開発・製作
・投下実行するのはなぜ。
同じ星に住む同じ人間同志、
今もロシア、ウクライナで戦
争を行っています。そこに
色々な支援をするのでは無
く、お互いに助け合い、手を
取り合って良い国作り（全世
界）をしていかなければいけ
ないと思いました。

資料館からは、見る事の出
来ない光景、写真、遺品、焼
け跡。本当に悲惨と言うよ
り、地獄絵図でした。今ロシ
アとウクライナの戦争で原爆

【青年部 柳澤豊】8月4
〜6日で原水爆禁止大会に参
加しました。
今回広島大会は初めての参
加です。
当日は予定通り開会式に参
加でき、原爆ドームの視察、
資料館では原爆の恐ろしさ、
被爆者の方々の辛さを目で見
て感じてきました。
開会式は各国の方がビデオ
や、実際に広島に来て演説を
して原水爆の恐ろしさ、廃止
を訴えていました。
夜には葛飾原水禁の皆様と
意見交換をしながらの食事

い為に僕ら若い世代にも引き
継いで行かなきゃいけないな
と思いました。
3日目、8月6日 午前8
時10分原爆投下の時間に合わ
せ平和記念公園で黙祷しまし
た。
広島県知事や、岸田首相の
挨拶は残念ながら目の前では
見られませんでした。動画
サイトにて見ながら式典に参
加しました。その後は葛飾の
平和の木に水やりをして原水
爆禁止世界大会の閉会式に参
加。
そこでも各国の代表の方が
再度原爆の恐ろしさを伝え、
世界から核兵器を無くす訴え
をしていました。
今回も大変貴重な機会を参
加できてとても勉強になりま
した。3日間ありがとうございました。

（水素爆弾）を使用したらと
思うと本当にぞっとします。
このような殺戮兵器は地球と
いうこの星には必要ない物と
思います。世界中から戦争、
核兵器の根絶を心から願って
います。スペインから来てい
る方も同じことを言っていま
した。
全体を通して、原水禁世界
大会、この大会を通じて世界
各国の人々に原爆というもの
が引き起こす悲惨な地獄のよ
うな現実を心に刻んでほしい
と思いました。この先何十年
とこの大会を続けることで、
核兵器のない平和な世界、こ
の星（地球）に成る事を願っ
ています。

敬老の日の贈り物

9月の敬老の日になんで、70歳を迎えた組員さん
へ日頃の感謝を込めて葛飾支部より記
念品を贈呈します。

記念品は、熱中症予防にも役立つ、
室温計です。9月の群会議でお配りし
ます。



公式LINE登録しよう

葛飾支部公式LINEにはもう登録しましたか？
登録すれば集団健診やイベント情報など組
合の情報定期的に送られますよ。
登録をして組合の情報ゲットしよう！



建設業働き方改革 2024問題対応 待ったなし



松浦社労士

理、36協定の締結、有給休暇の管理など求められている項目は多いです。今一度、人を雇用している事業主の方はご自身の事業所の管理体制の見直しをしましょう。

チェックしてみよう

- 労働契約書、労働条件通知書、雇用通知書のいずれも作成していない
- 法定三帳簿（労働者名簿、賃金台帳、出勤簿）を整備していない
- 始業と終業の時刻を毎日確認（チェック）していない
- 36協定届を提出していないにもかかわらず、残業をさせている
- 有給休暇を制度として策定していない
- 1日8時間・1週40時間を超える時間を労働者が働いた場合に、残業代を支払っていない



働き方改革周知パンフレット

8月25日開催の活動者会議で「建設業働き方改革」の学習会を講師に松浦洋一郎社労士をむかえ開催しました。学習会の中で、働き方改革とは人材確保が連動していること、働きやすく、働きがいのある職場づくりが求められていることの説明がありました。

算定基礎届手続き時アンケート 働き方改革への対応の現状

6月末から7月初旬にかけて窓口を開設して対応してきた厚生年金算定基礎届手続きの際に、働き方改革への対応などの項目のあるアンケートをお願ひしました。協力いただいたのが40社でした。

調査結果

- ・休日：週休1日が最多の23回答
- ・36協定締結：結んでいないが最多の18回答
- ・残業時間管理：把握しているが最多の28回答
- ・有給休暇5日取得：取得できていないが最多の22回答

資格講習のご案内

支部開催 フルハーネス特別教育

今年6月開催の足場特別教育に続き、今年度2回目の支部主催の講習会を開催します。講習は、高所での作業をするために必要な資格であるフルハーネス特別教育です。

2022年1月からフルハーネス着用が義務付けられています。高所で作業する資格の必要な方は、支部事務所までお申し込みください。

研修センター 保護員責任者講習

令和6年4月から安衛則の一部改訂に伴い、保護員着用管理責任者講習が新設されました。

令和6年4月から安衛則の一部改訂に伴い、保護員着用管理責任者講習が新設されました。

火災・地震共済加入促進 自然災害への備えをしよう

今年のとげん火災共済と地震共済の加入促進は、今年4月から来年3月までの年間通じての取り組みとなっています。独自共済の火災・地震共済は、独自であるからこそ実現可能な安い掛け金と高い給付率を誇る制度です。多くの組合員が加入するからこそ実現できる制度です。拡大月間中は、組合員同士の接点が増え、その話題のひとつに共済制度を加え、加入促進を進めていきましょう。

8月の南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）や、温暖化に伴うゲリラ雷雨、台風などの情報は、私たちの日常が災害と隣り合わせの環境であることを再確認させます。住環境の整備、備蓄は日頃からの準備を進め備えていきたいと思います。共済制度は方が一被災された場合の補償です。その方が一の補償が不安な場合は、支部事務所までお問い合わせください。

自転車保険も

また、自転車保険も加入促進中です。自転車保険も多くの組合員による加入で大きなメリットである30%の団体割引を実現しています。自身の補償だけでなく、個人賠償責任もしっかりついている自転車保険です。自転車は乗るけど保険に未加入という方は、支部事務所へお問い合わせください。○家族加入（年間）：4500円 ○個人加入（年間）：2500円

ウォーキング大会 参加者募集中

今年も水元公園でウォーキング大会を開催します。秋を感じながらのウォーキングです。ぜひ多くの皆さんの参加をお待ちしています。お申し込みは支部事務所まで。
日時：11月17日（日）9時30分～13時予定
場所：水元公園
参加費：無料
参加対象：組合員とその家族
募集人数：150人（定員に達し次第受付終了）
締切：11月1日（金）
当日は、お弁当で抽選会もあります。

熱中症注意 水分補給と休憩を

9月に入りましたが、今年はまだまだ残暑のための中での暑さ対策が求められています。現場では引き続き対策をしながら作業することが求められる状況です。暦は秋ではありますが、気を抜くことなく、こまめな水分補給と休憩で、熱中症にならないように気を付けましょう。

